平成　30　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4099500029		
法人名	医療法人昌和会		
事業所名	グループホーム元気の里		
所在地	福岡県田川郡糸田町2495		
自己評価作成日	平成30年9月25日	評価結果確定日	平成30年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成30年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・利用者さん一人ひとりの個別性を大事にし、根拠に基づいたケアを行う
・地域からチョイスして頂ける施設を目指して自己研鑽を行い、介護技術とサービスの向上を図っている
・笑顔があふれる毎日を目指しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の方々からの食器や食材提供の声かけや、「（居室は）空いているかね」と問い合わせがあったり、小学生の頃に前施設長から「お帰り」と声をかけられた大学生の実習を受け入れるなど、法人が変わっても開設以来実践してきた「地域との交流を大切にする」との理念の成果を全職員で共有している。認知症カフェの参加も継続し、今回施設長にギター演奏をとの要望もある。職員の気付きやアセスメント結果、入居者や家族の意向を話し合い、毎日のトイレ誘導は、家族から「しっかりと歩行できるようになった」との評価を受け、「ここ（ホーム）に来てよかった」と話す入居者もある。今年度から運営推進委員に身体拘束廃止委員を委嘱し、入居者の状態に応じて終末期委員会の立ち上げを検討している。今後も地域や家族、関係機関の理解や協力、母体医療法人との連携で、さらに地域に密着したサービスの展開が期待される。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　**グループホーム　元気の里**

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・始業・終業時に理念を唱和して再確認の場にしている。 ・理念の中で地域活動や施設行事の支援を実施している	地域の方々から「食器はいらんかね」、「これ食べんかね」と声がかかったり、「(居室は)空いているかね」と玄関まで来られる方もある。理念の地域との交流を大切にするを実践してきた成果として受け止め、毎日の唱和を継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・運営推進会議を利用して施設の行事を地域の老人会や包括支援センターに広報 ・施設は包括支援センターの認知症カフェや地域の祭などに参加	恒例の夕涼み会はホームの駐車場で開催され、100名もの参加があり、入居者も全員参加している。神幸祭の神輿の巡行も継続している。今年度は小学生の頃に前施設長から「お帰り」と声を掛けられていた大学生の申し出で、実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域への働きかけはできていないが、8月に広報用のポスターを病院や施設に掲示、医療法人昌和会のホームページへ「元気の里」の欄を追加相談中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・施設の運営状況や課題を報告しアドバイスを頂いています。 ・身体拘束廃止委員会では適切なアドバイスを頂いています	入居者や家族、老人会会長、地域の介護施設職員などの参加で、2ヶ月毎に開催され、会議録を玄関に公表している。会議では行事案内や報告などが行われ、今年度から運営推進委員に身体拘束廃止委員を委嘱している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域包括支援センター長と連携し、地域の活動に参加、グループホームの活動協力を要請している	地域包括支援センター主催の認知症カフェに入居者3名と参加しているが、今回施設長にギター演奏をとの要望があり、披露する予定である。担当者との連携も良好で、地域を離れたくない入居者の転所について話し合いを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・平成30年6月から身体拘束廃止委員会を構成し、これまで2回の委員会を行い身体拘束廃止の取り組みを行っている	早々に身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束の具体的な内容を写真付きで説明している。身体拘束に関する記録用紙を整備し、入居者や家族の意向や同意を得てセンサーや食事用のエプロンを使用し、1ヶ月毎に見直しをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待問題や人権擁護の勉強会を重ね、職員の意識を高めるよう努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度について、利用者さん1名導入中です	予断を許さない実妹の他に親族がないため、成年後見制度利用の手続きを申請している入居者がある。事例を通して事業や制度の違いや理解を深める研修を予定している。	円滑な日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用を促進するために、事業や制度に関する紹介や制度等のパンフレットの整備をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には丁寧に説明しています		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・施設のレクにご家族を招待するなどの動きを作り、その際に意見交換などを行っていく計画で今年初めて一回実施	来訪する家族も多く、毎月のホーム便りを廊下に掲示したり、家族に個々の入居者の暮らしぶりを記載した個別のたよりを送付し、意見の表出を促している。日頃から来訪する家族も多く、8月のソーメン流しには3家族の参加があった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日のカンファレンスで日々の問題や課題を抽出し、月一回の職員ミーティングで個々の職員の意見を共有している	毎日10～15分程度ミーティングや月1回の定例会で職員の気付きや提案などを話し合っている。毎朝の陰部洗浄やキッチンペーパーを活用した陰部清拭が実践され、食器洗浄機の購入で、業務内容を見直している。施設長は、母体法人を通じたスピーディな回答や購入に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・個人面接の中で理念、方向性を共有し、個人の目標を設定してもらい、1年後振り返る計画です		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・年齢性別障害での排除はしない。個々の人格的成熟性や意欲を基に採用基準としたい	母体法人の人事課で採用され、法人内の異動もある。20～60歳代の男女の職員が、諸般の事情に応じて就労している。希望する休みやシフトへの配慮もあり、施設長が自らソーメン流しセットを作成したり、イラストやスナップ写真の加工、誕生会のケーキ作りなどで職員の特技を発揮するなど、生き生きと働ける職場づくりをしている。親族の介護を経験した職員は「おばあちゃんが好き」と入職して7年目ですと、笑顔で話している。	介護職員の雇用が課題となっている昨今の現状から、人格的成熟性や意欲を採用基準とされているので、採用面接にはホームの状況を熟知した職員の同席をお願いします。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間教育計画及び施設内年間勉強会を計画。実施しています。	母体法人主催の人権研修が開催され、人権に関する外部研修の資料を活用した内部研修や身体拘束に関する研修を実施している。本年度は保険者主催の人権研修に参加予定である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内年間研修計画と外部研修の選択を行い職員の教育と質の向上を図っています		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に加わり、そのグループ研修に参加しているが人員不足の問題から十分に出席できていない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望があれば基本情報用紙を基に面接し、ご家族と本人からお話や希望を確認し信頼関係作りに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記面接の中で行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報用紙を基に、基本的ニードを分析して支援の開始を決定している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所時に利用者さんや職員全員に紹介し、新しい仲間をアピールして人間関係づくりをしています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんのご家族には一緒に支え合ってもらう協力要請や面会、外泊をお願いしています		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の背景を大事にして本人理解を深める働きかけはしているが個々の馴染みの関係を支援するまでには至っていない	恒例の夕涼み会の参加や神輿の巡行が継続している。入居前の趣味のグループの友人が来訪したり、毎月自宅に外泊する入居者もある。参加した認知症カフェで「先生」と声をかけられる入居者もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションや誕生会を通して一人ひとりの人間性を大事にしているが、支え合う関係の構築までには至っていない。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係づくりは大切だと感じているがそのケースには出会っていない		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの生活リズムや習慣を大事にしている ・業務の都合に合わせる場合は話し合って決定していく	フェースシートやアセスメントシートを整備し、入居者の意向や思いの把握に努めている。入院先で「早く（ホームに）帰りたい」と丼めしを食べて頑張ったり、「（ソーメン流しで）ソーメンが食べたかった」など、思いを表出できる関係や環境作りに努めている。	把握した意向は介護計画書に明記し、更なる意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報収集から、個々の背景を把握して関われるよう個人理解に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLや立位保持力など、個々の残された生活力の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員ミーティングで個々の問題点や介入方法を提起していただき、援助の統一を図り、カンファで評価している	職員の気付きやアセスメント結果、入居者や家族の意向を話し合い、介護計画の作成や見直しをしている。母体医療法人デイケアのスタッフから専門的アドバイスを受け、日々のケアに活かしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・わかり易い文章記述を周知徹底 ・些細なことでも必ず記録に残すことをミーティングで共有する場面が多くなった		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	糖尿病の利用者さんには主治医の指示、栄養士との体制づくりを行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スタッフ数などマンパワーの問題から地域資源との協働には至っていない		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症は見立病院、内科は中富医院、歯科はみかも歯科と連携し、ご家族と本人に納得してもらってから支援している	母体の認知症専門医や循環器など内科、歯科などの協力医療機関から定期的な診療を受けられるように支援している。その他の医療機関受診は家族の同行が基本であるが、状況に応じて職員が支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「ホウレンソウ」を周知し、組織の動きを徹底している 少しの気付きでも朝の申し送りで報告し早期発見、早期受診につなげている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な会議や往診前のFAXで情報交換している。 入院の際はご家族と一緒に病状説明を受け退院後の受け入れ等を明確にしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのガイドラインを作成し、終末期のあり方について入所時に一度確認する。 終末期を迎える際に終末期委員会を立ち上げて頻回なカンファレンスをしていく方向	ここ1年、看取りはない。運営法人が変わる前からの協力医療機関との連携は良好で、人生の最終段階のケアについて、入居者や家族の意向を確認しながら、生活の場での支援の在り方を検討予定である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間教育とは別に消防訓練の一環として救急蘇生法の学習をしていく予定		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でハザードバップや町の体制を確認した。 現在災害対策マップを作成中	今年度新規入職者もあり、6月には通報訓練を実施し、11月は夜勤対応の訓練予定である。大雨などで避難場所まで行けないことも予想され、地元消防団員の職員もおり、隣接する前施設長宅は高台のため避難先として了解を得ている。米や味噌などを備蓄している。	昨今の異常気象から、母体医療法人の備蓄の運搬が困難になることも予想されるため、ホーム独自での備蓄の検討をお願いします。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者虐待防止や人権擁護の勉強会を実施 日頃の対応方法もカンファレンスで意見交換を行っている	入居者の心身の状況や職歴等に応じた声かけや対応が行われている。調査日はのんびりした雰囲気の中、入居者の言動をそのまま受け入れるケアが実践されていた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんのアクションの意味を仮設として伝え、対応の中で検証をしている 結果的に利用者さんの希望に沿っていると考える		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活上、ひとりひとりの希望をすべて叶えることはできないが趣味や特技を活かせてもらえるよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんの好みの衣類や装飾を取り入れている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	超高齢化の中で一緒に食事は作れないが、お膳を並べたり片付けを一緒にやってもらっている	朝食はホームで、昼食や夕食は母体法人厨房でつくられている。ホーム便りにはおやつや誕生会の希望のメニューを前に入居者の笑顔満面のスナップが掲載されている。次回はぜんざいを作る予定で、前回食べ過ぎた話が話題になったり、閉眼したままや座ったままの入居者には其々のペースに合わせた声かけや介助が行われていた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さん一人ひとりの水分チェックを行っており、お茶を飲まれない方にはポカリスエットやヤクルトなどを取り入れて補給を図っている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	みかも歯科と連携し、口腔ケアのあり方を指導していただいている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況にあった支援を行っている。時間ごとのトイレ誘導の声掛けで日中は全員紙パンツにパッドを基本としている	トイレ誘導は、家族から「しっかりと歩行できるようになった」との評価を受け、さらにトイレでの排泄が促進している。入院時前留めのおむつを使用していた方は、紙パンツを使用し車椅子でトイレ誘導になり、「ここ（ホーム）に来てよかった」との感想もあった。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方にはトイレ誘導時に腹部マッサージを行って町の蠕動を促している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	集団生活の中で希望に沿ったタイミングでの入浴援助には限界があるので一応スケジュールで動いているが希望があれば調整している	広い浴槽で週2回の入浴をゆっくりと支援している。下着を脱ぐことを拒否する入居者に下着の上からお湯をかけて入浴することを理解してもらうなど、疾患の特徴を理解した支援が行われている。気持ちが良い方が先と施設長は話している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し昼寝や休息も取り入れ、その方の生活習慣にあった安眠や休憩を取り入れている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	高血圧や糖尿など職員が全員理解できるよう基本情報の中からカンファで周知している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵や塗り絵、カラオケや合唱など多様的な活動も取り入れている。またドライブやレクなどアクティブなものも実施している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さん個々の外出支援は不足しているが、レク活動で集団外出の実施や個別に外泊・外出をご家庭に依頼している。また地域の認知症カフェなどにもでかけている	紫陽花などの花見に車2台で出かけたり、隣接する前施設長宅の庭で今年も桜の花見をしている。毎日入居者と職員がゆったり過ごす時間もあり、今後は短時間でも個別に外気に触れる機会を設ける予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前から盗難防止の目的で現金のお預かりや所持は行ってもらっていない		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には自由だが、公衆電話を設置しておらず、希望があればその都度対応し、ご家族に電話を入れている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は家庭に近い環境を作り清潔保持に努めている。レクの写真や貼り絵などを掲示し楽しめる雰囲気を作っている	玄関傍の共用空間は、広い掃き出し口の窓から秋風が入り、職員が備え付けのピアノで童謡などを弾くこともあり、入居者の憩いの場となっている。今夏は広いウッドデッキでそうめん流しを楽しんでいる。広い廊下やトイレ、イレ前に並んだ3台の洗面台は清掃が行き届き清潔感に溢れている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室はすべて本人の趣味や好みを重視し、ご家族と本人で配置や飾り付けを行ってもらっている。共有の場所も本人の好きなソファや座る場所を決めている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具の持ち込み、配置、および飾り物はご家族と本人で決めてもらっている	各居室入口は表札が設置されている。箪笥やテレビが持ち込まれ、壁には手作りの飾り物や家族写真が張られたり、入居者の好きな縫ぐるみが置かれた居室もある。どの居室も整理整頓され、居心地良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLや歩行状態から判断した援助を行っている		